

質問、あなたにとって松山とは？、仕事とは？

SCENE-2 生産技術

答える人 生産部 中村 英男



自分たちの工夫が込められた製品を完成させ、お客様の元へ送り出していく仕事。

PROFILE

所属：製造部技術課設備係
入社年：2001年
出身地：長野県東御市
出身校：長野工業高等専門学校 電気工学科卒

周囲が電気・電力系の企業を志望するなかで、ずっと機械メーカーを目指していた中村さん。幼い頃からなじんでいたNiploのものづくりに出会って思ったことは。

入社後の研修初日の緊張感は、私の原点。

Q-A …なぜ、松山を選んだのですか？

実家が農家で、Niploの農作業機はありました。だから、松山の名前は昔から知っていました。具体的にどんな会社かということまでは知りませんでした。

就職活動を始めた時は、できれば農業に関わる分野でものづくりに関わりたいと思っていました。そういう意味では、松山が選択肢に入るのは当然だったと言えるでしょうね。もっとも、試験の時は、周りが四大生ばかりだし、飛行機の絵を描けとか、ユニークな課題があってちょっと不安になりましたが。(笑)

Q-B …実際に会社を見た時の第一印象は？

あまずく景観のいい所にある会社だなあと感じましたね。社有林に囲まれていて、高原リゾートみたいな風景ですから。工場っぽさがあまり感じられなくて、いかにも製品を開発している拠点という印象。メーカーというと、製造ラインが走っていて、人もあわただしく動き回っているイメージがありましたから、かなり想像とは違いましたね。

それから思い出すのは入社後の現場研修の初日のこと。立ち仕事だったのですが、学生時代にしたアルバイトとは、やはり責任の重さが違う。一日中緊張していて本当に疲れました。あの時の緊張感は、今でも私の原点として心の中に残っています。

毎日が新鮮な発見の連続でした。

Q-C …松山のものづくりの面白さとは何ですか？

松山のものづくりの面白さは、自分の目の前で完成品が組み上がっていくこと。自分たちの工夫が込められた製品を、自らの手で完成させ、お客様の元へ送り出していく。そこにあると思います。

私は、入社以来ずっと製造部門で、製品の組立や溶接を担当してきました。その後、技術課技術係に異動となって、組立用の治工具や溶接具の設計や改良などに携わったのですが、学生時代に電気を専攻していた私にとっては未経験の分野で、毎日が新鮮な発見の連続でした。その分、勉強しなくてはならないことが山のようにあったわけですが、本当にいい

い経験をさせてもらったと思います。

Q-D …いま、あなたの仕事は？

現在は技術課設備係として、工場内の製造設備の保守点検、排水処理施設の管理などを担当しています。

ものづくりの現場をほぼ一通り経験してから技術課に来ましたので、設備を使う側としてノウハウはわかっているつもりだったのですが、それを保守管理する側に回ると、全く違うんですね。必要な技術知識も異なります。特に製造設備については、今も実際に携わりながら学んでいるところです。

Q-E …これからどんなことを実現していきたいですか？

設備係の合言葉は「インテリジェンスなパワー系」。その実現を目指して頑張っています。設備関係の知識をさらに深めて、どんなトラブルにも的確に対処できるようにしていきたいです。

周りのサポートがあったから、成長してこられた。

Q-F …松山の自慢できる点とは？

面倒見の良さですね。私自身、さまざまな製造の現場を体験してきているわけですが、どこにいても、先輩たちが見てくれる。単に和気あいあいとしているというより、ある種ファミリーのような感覚で、仕事からオフまで、互いに教えあったり支えあったりしてくれるんですね。そういう周りのサポートがあったから、成長してこられたのだと思っています。

Q-G …休日・オフは何をしていますか？

もともと自然を相手に楽しむのが好きなので、冬ならスノーボードとか、夏ならドライブとか。会社の先輩や仲間とも一緒に出かけたりしています。会社のサークルやさまざまな行事にもわりと積極的に関わっています。

ただ、個人的には春に結婚するので、しばらくはマイホームを大切にすることにしようかな。

Niplo豆知識

こんな製品をつくっています。

【トラクター用作業機】

土を活性化する機械を中心に農業のあらゆる分野で活躍する各種作業機械



【自走式野菜収穫機】

エンジンを搭載した各種野菜収穫機(玉ねぎ・ジャガイモ・サツマイモなど)



【野菜包装機】

レタス・しめじ、などの全自動包装機及び供給ロボット

